



# 週間展望

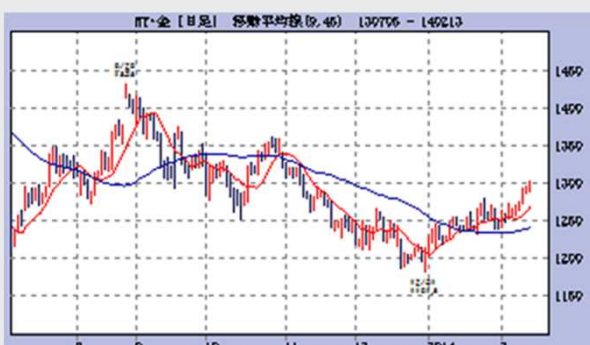
2014年2月24日の週

You can imagine the forecast of next week's futures market in only 5 minutes.

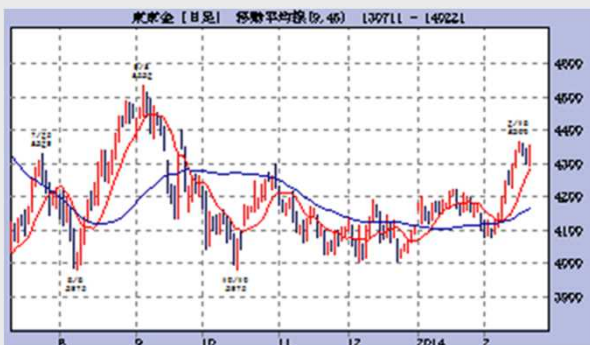
## Precious Metals

発行日 2014年2月24日 (金)

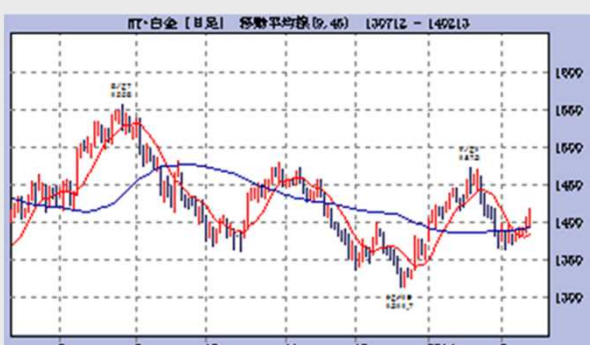
NY金チャート



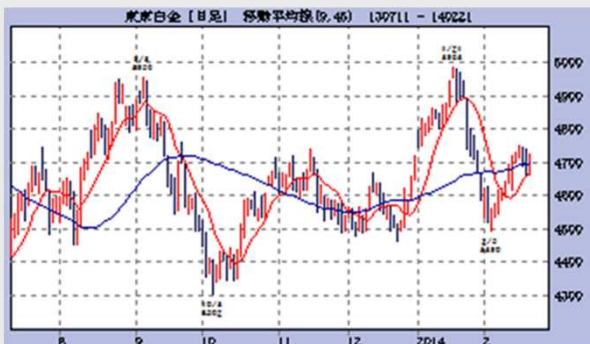
東京金チャート



NY白金チャート



東京白金チャート

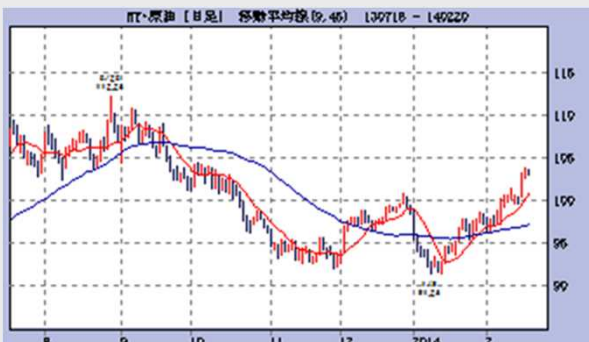


【金】2月の米国FOMCの議事録によれば、100億ドルの金融緩和縮小（Tapering）全会一致で決定するとともに、更にタカ派と見られる数名は一步踏み込んで、原拠の経済成長の下では「毎回100億ドルの削減計画を明確な方針として打ち出すことが望ましい」と主張している。更に数名は「FF金利の引き上げを早急に検討すべきかもしれない」と述べ、従来の金利決定方式で言えば、2014年中にも引き締めが開始されてもおかしくないと言及する委員もいたほどタカ派色の強い議論内容になっている。こうしたタカ派の議論を嫌気してリスクマネー市場は下落している。金にとっても下げ要因となる。中国では中国建設銀行による石炭会社への融資を信託商品として吉林省信託が販売した2月7日満期の運用商品の元利金が返済されず、デフォルトになったという。先月末の政務不履行が危惧された中国工商銀行の融資案件は政府介入により不透明な救済が行われたが、今回同様の措置が採られる可能性がある。だがそんな網羅りは持続不能であろう。（以上Monetary Affair 世界潮流アップデートより）中国のシャドーバンキング問題や不良債権の増加は、金価格にとって格好の上げ材料となる。ワールドゴールドカウンシルが公表した2013年の金の需給は、金のETF需要が▲881トン減となり、前年の+279トンと比べると▲1160トンとなった。そのため、金塊とコインの需要増が前年比+365トン増、宝飾品需要が+247トン増であったが増加は打ち消されてしまい、金の需要合計では3745トンと前年比▲726トンとなった。鉱山生産は144トン増であったが、スクラップ供給は▲219トンであったので、供給は▲75トンとなっているが、需給は+595トンの供給過剰となっている。それでもインドや中国での金の実需は増加しており、第4四半期は前期比でインドが70.5トン増、拡大中国は8.2トン増で、需要が回復していることが見て取れる。需要が回復した四半期の次の四半期は価格が上昇することが多い。したがって金価格は強気でよいだろう。レンジ NY金価格 1300ドル～1400ドル 東京金価格 4300円～4500円

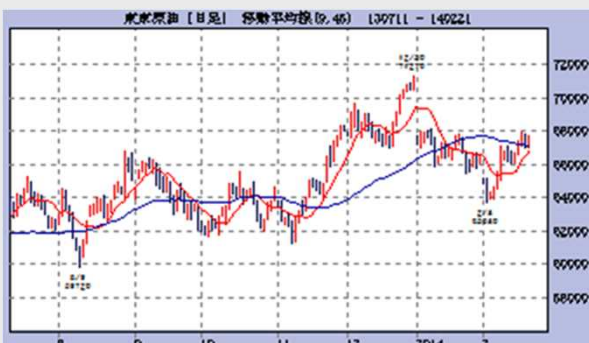
【プラチナ】1月20日から始まった南アフリカの鉱山ストライキは一向に解決の糸口が見えないまま1か月を超えている。もう少し続くと、鉱山会社の在庫が無くなり、フォースマジュールが宣言されることも視野に入る。そうなれば、世界中でプラチナの取り合いとなり、在庫を持っている商社やスイスのディーラーは売り惜しみをして価格は急騰するだろう。実際にフォースマジュールが宣言されなくてもそうした思惑から在庫を持っている中間業者は売り惜しみを始めてもおかしくない。相対現物市場で価格が高騰すれば、そうした商社や銀行は公開市場でも買いを入れてくる。それに高すぎるとの判断でうっかり空売りでもしようものなら、満期日まで売り抜けられなくなって価格高騰に拍車をかけるというのが過去にあった事例である。今プラチナは市場価格が下げているからといって売るべきではない。売りは少しの利益を求めて全財産を無くすようなものである。こんな需給が逼迫している商品は買いたく考えられない。プラチナ鉱山三社はAMCUを相手取って訴訟に踏み切った。ストライキに伴う警備コストと非組合員の就業を阻害したことに対する生産機会の喪失に対する損害賠償である。黒人労働者の組合は二倍に給与を上げるという強引な要求をストライキという強行手段で突破しようとしているが、会社側はそれほど収益が上がっておらず、受け入れ難い。また仮にストが終結したところで、1か月に及び生産障害は、年間生産量178トンの12分の1が無くなったこととなり、その供給不足は需要が衰えない限り解消されない。その需要は触媒はプラチナ以外ではできないことは技術的に証明されている。あとは早く電気自動車に切り替えるしかない。予想レンジ NYプラチナ価格 1400ドル～1500ドル 東京プラチナ価格 4600円～5000円

## Oil

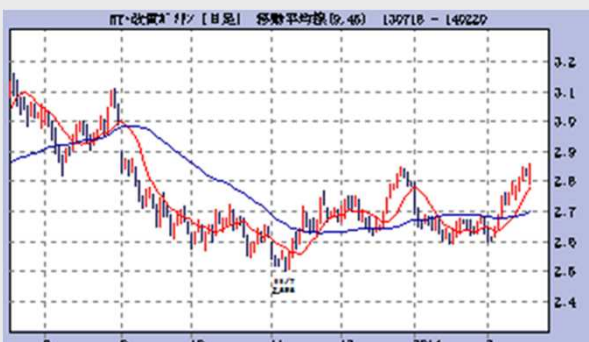
NY原油チャート



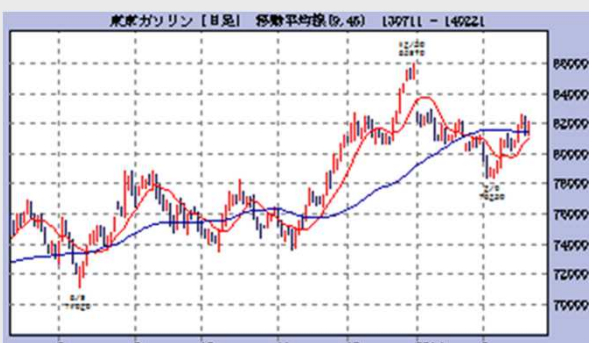
東京原油チャート



NYガソリンチャート



東京ガソリンチャート

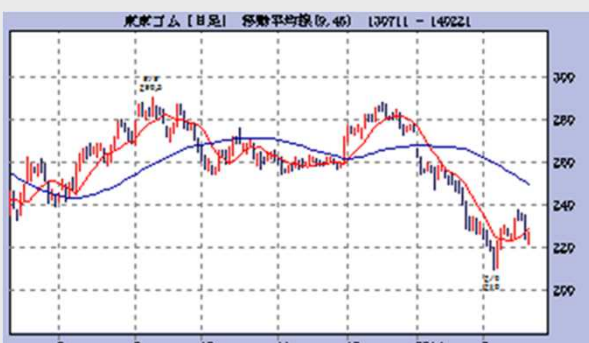


【原油】NY原油価格は102.92ドルまで上昇している。ファンドのネット買い残は過去最高の42万枚を超えている。価格が上昇している要因は、FRBによる金融緩和縮小が遠のいたという程度の内容であり、昨日は議事録でタカ派が多かったことから下落している。ファンダメンタル的に言えばNY原油価格が上昇する要因はほとんど見当たらない。OPEC諸国は減産しておらず、また政策的に減産が難しい国が多い。生産減があったリビアやイランでは徐々に生産が回復しつつあり、イランに対する海上保険の規制が緩められたために既存購入国への輸出が増加傾向にあるという。イラクではトルコへのパイプラインが開通して物流ネックがなくなりつつある。要するに地政学的リスクによる原油の供給不安はますます遠のいている。その中で北米からの生産は極めて順調で、毎週増産されている。2月14日までの週の米国の原油在庫は、前週比98万バレルの増加。大幅な減少が予想されていたが、予想外に増加した。しかし、オクラホマ州クッシングから南部湾岸地方の石油精製設備へのパイプラインが稼働し始め、NYMEXの原油在庫が減少することが強気の見方の要因となっている。実際問題は在庫場所が変わっただけのことである。当面は寒波の影響で暖房油需要が増加すると思惑が原油価格を押し上げているが、いずれ急落するものと思われる。予想レンジ NY原油価格 100ドル~103ドル 東京原油価格 64000円~68000円

【ガソリン】米国の石油製品出荷量はガソリンと留出油は3週連続で減少している。寒波の割には荷動きが悪く、石油製品もガソリンも留出油も過去5年平均を下回った出荷量である。寒波で原油価格が上げているほど暖房油の出荷は良くないようであり、どちらかという天然ガスの出荷が好調ようである。日本の石油連盟が後方したガソリン週末在庫(2月9日~15日)は、前週比+1.6%の208万3,294キロリットルとなった。推定出荷量は▲2.7%の98万6,469キロリットルと減少していたが、引き続き100万キロリットル前後の高水準を維持している。灯油在庫は前週比▲13.1%と大幅に取り崩されている。推定出荷量は+26.3%増の73万8,557キロリットル。ただ、2月下旬にかけて寒波は緩む見通しである。原油価格はファンドが買い上げて上昇しているが、危うい上昇であり、支える材料に事欠くため、今後急落する可能性が大きい。予想レンジ NYガソリン価格 2.7ドル~2.9ドル 東京ガソリン価格 80000円~84000円

## Rubber

東京天然ゴムチャート

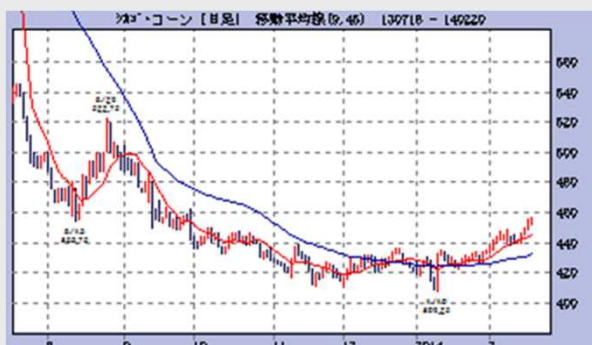


【天然ゴム】予想レンジ 中国の景気が伸び悩み傾向を見せており、HSBC銀行が公表した2月の製造業PMIは前月の49.5から48.3まで下落。上海ゴム価格も下落している。そのため、円高の収束で一時反発していた東京ゴム価格も再び下落に転じている。タイゴム協会によれば、東南アジア地区のゴムせいそンコストはRSSで190セントと言われ、現在のタイオフファー価格はそれを下回っている。国際ゴム後者(IRCo)の枠組みで強調介入を模索する動きもあるため、生産国再度から安値拒否の動きが強まる展開はあり得るが、需要の減退にはいかんともしがたいであろう。当面ゴム価格は下値低迷を続けるのではなかろうか。東京ゴム価格 200円~220円

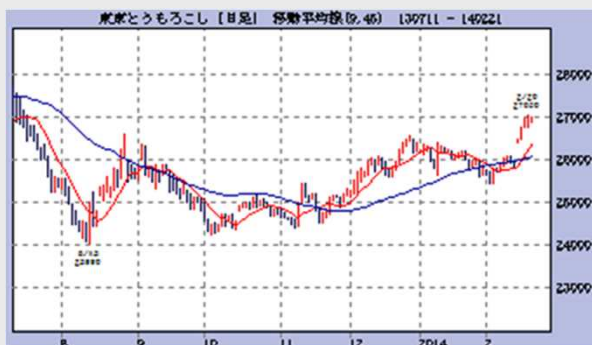


## Grain

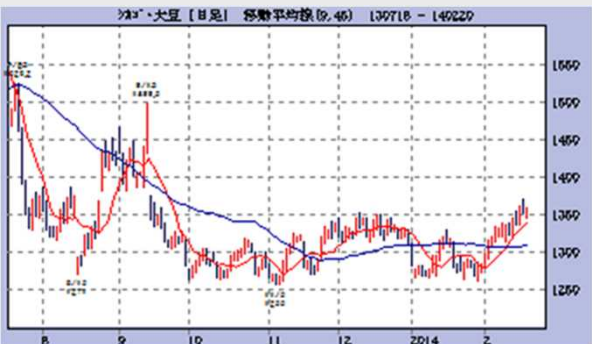
シカゴコーンチャート



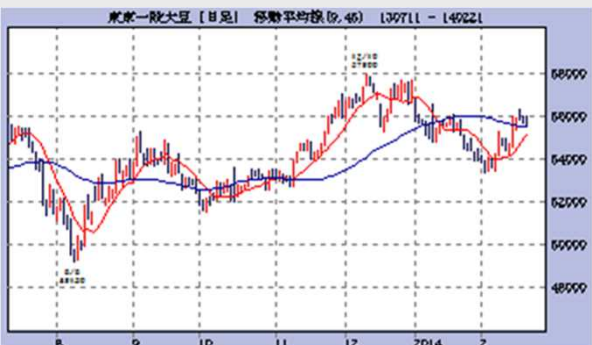
東京コーンチャート



シカゴ大豆チャート



東京一般大豆チャート

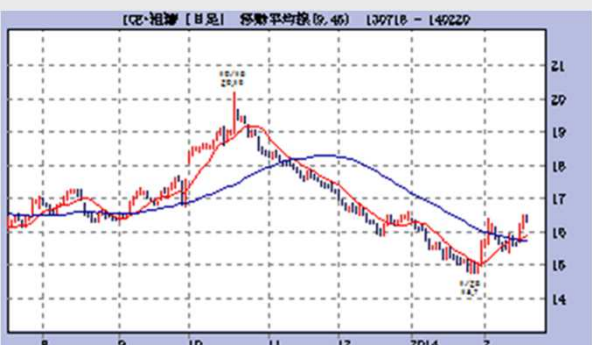


【トウモロコシ】シカゴトウモロコシ価格はじわじわと上昇している。大豆とトウモロコシの比差（大豆価格÷トウモロコシ価格）は $1358.2 \div 455.75$ セントで約2.98倍となっているため、14/15年度の作付は大豆の方が有利となっている。そのためトウモロコシの作付が少なくなるとの思惑から少しずつトウモロコシが買われ始めている。米農務省は14/15年度のトウモロコシの作付面積は前年度の9540万エーカーから9200万エーカーに3.6%減ると予想している。またウクライナでの内乱により、トウモロコシの輸出に影響があるとの見方もでている。ウクライナの2月の輸出量は16日時点で122万トン、その90%の112万トンがトウモロコシだった。南米ではブラジルでもアルゼンチンでも小雨が降っており、作物の生育に適した天候となっている。ただ、ブラジル商品供給公社（CONAB）はトウモロコシの生産予想を▲4.43%下方修正し7546万トンとした。前年比▲6.76%となる。ファンドはネット売り残からこの3週間でネット買い残に変更しており、こうした買戻しが価格を押し上げた意味もある。2月13日の週の米国産トウモロコシ輸出検証高は、82万7600トンで、前週の69万5200トンを上回っている。トウモロコシについては、未だ特定された上昇要因は乏しいが、安値で長期間横ばいだったことから少し上げ基調となっている。背景には好調な輸出があるが、南米からの輸出も出てくる時期であり、当面はそれほど値上がりするとは思えない。ただ、春先以降は来年度の生産量を予測して割安のトウモロコシの方が買われる可能性がある。予想レンジ シカゴトウモロコシ価格 450セント～480セント 東京トウモロコシ価格26000円～28000円

【大豆】シカゴ大豆価格は2月に入ってから上昇基調となっている。全米油糧加工業者協会（NOPA）によれば1月の大豆圧砕量は1億5694万ブッシェルと前月の1億6538万ブッシェルを下回った。それでも価格が上昇しているのは、ブラジルの乾燥気候が市場を懸念させているからだ。ドイツの油糧調査会社オイル・ワールドは、南米の水不足による影響から世界の大豆在庫の積み増しペースが鈍るとの見通しを示した。生産自体は消費を上回る見通しに変わらないが、当初予想ほどの供給過剰にならないとしている。同社は1月に13/14年度の在庫積み増しが1600万トンになるとしていたが、増加幅が1200万～1300万トンにとどまる可能性を示唆した。ブラジルやパラグアイの生産縮小を懸念し、またアルゼンチンのラバンパやブエノスアイレス州南部が乾燥に見舞われていることも指摘。ただ、アルゼンチンのほかの生産地では大雨であることも認識した。実際にはそれほど大きな影響はないものと思われる。ブラジル商品供給公社（CONAB）は大豆の生産量を9128万トンと予想し、前月から+1.13%増量、前年度比では+11.73%となっている。今後こうした南米大豆が市場に出回るため、一時的にせよ値下げ圧力がかかるものと思われる。また来年度の作付に関しても、大豆は拡大方向にあり、その意味でも今後弱含みとなる可能性がある。予想レンジ シカゴ大豆価格 1300セント～1380セント 東京一般大豆価格 54000円～56000円

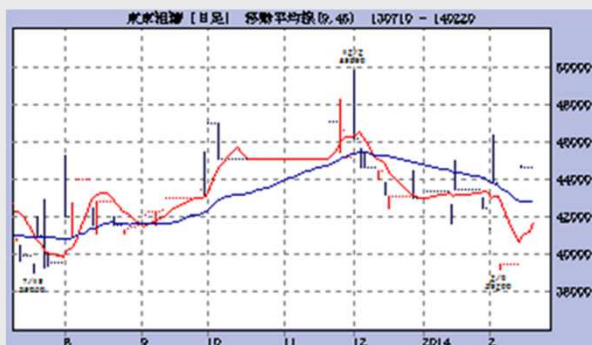
## Sugar

NY砂糖チャート



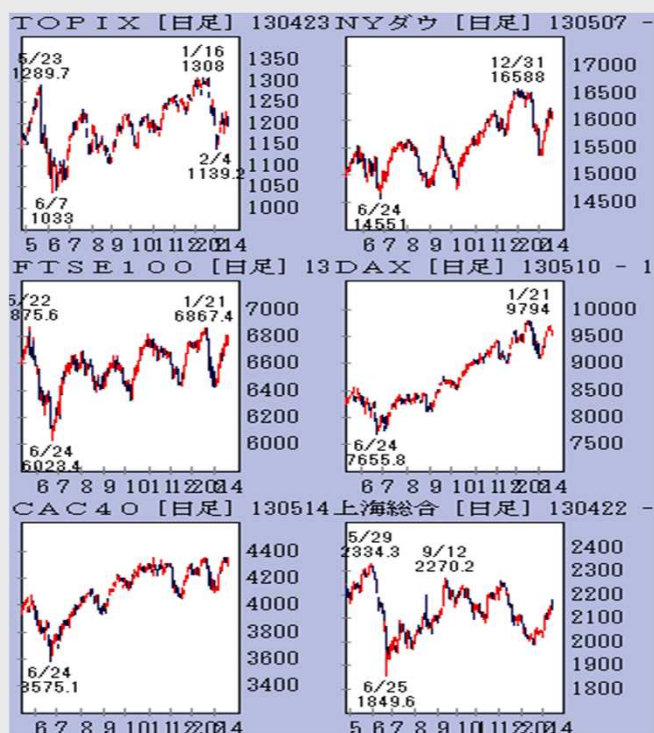
【砂糖】NY砂糖価格は、1月28日にchの14.7セントを底値に切り上がりつつあるが、上昇要因にも事欠くため、それほど勢いはない。ブラジル政党協会UNICAによると、同国中南部で干ばつ被害によって砂糖キビ生産に最大で4000万トンの被害が生じた模様。6億～6億2000万トンの生産高に占める割合は、7%と大きいが生産過剰に比べるとそれほど大きくはない。ただ、今後この干ばつの影響が拡がり世界最大の砂糖生産国ブラジルの生産量が減少するようなことになれば、価格はそれなりに反応するであろう。当面はブラジルを注視するしかない。

## 東京粗糖チャート



【砂糖】 予想レンジ NY砂糖価格 16セント～17セント  
東京粗糖価格 44000円～48000円

## Sidebar



## 【世界の株価】

東京証券市場のTOPIXは1月16日の1308を頂点に、2月4日の1139.2まで▲13%下落、

NYダウ平均株価は、12月31日の16588を頂点に、2月5日の15340まで▲7.5%下落、

英国FTSEは1月21日の6867.4から2月4日の6416.7まで▲6.6%下落、

ドイツDAXは、1月21日の9797から2月4日9071まで▲7.6%下落、

フランスCACは1月21日の4351.2から2月4日の4080.6まで▲6.2%下落、

上海総合は、12月4日の2260.8から1月20日の1984.8まで▲12.2%下落。

各国とも同じような値動きをしている。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行っておりません、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的財産権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



COMMODITY  
INTELLIGENCE

株式会社コモディティー インテリジェンス

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310

会社電話： 03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692

メールアドレス： kondo@commi.cc

発行元：